



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel 045-893-4877 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 263 号

(創刊 1988.12.14)

2011.08.07

「やらせアンケート」 住民訴訟提訴へ

平成 22 年夏栄区が実施した住民意識調査は、南線は国家プロジェクトとして重要で、しかも東名などに繋がる利便性の高い道路であると利点だけを並べて期待を問う誘導方式、つまり「やらせアンケート」である。その上、集計法の誤りにより間違っただけのデータを公表した。このやらせアンケートと間違いデータ作成による税金の無駄遣いに対して、会長他三名が地方自治法 242 条 1 項に基づき 6 月 6 日に横浜市監査委員に住民監査請求を行った。これが 7 月 8 日付で却下されたので、同条 2 項により 8 月 2 日横浜地裁に住民訴訟を提訴した。

本件の要点は以下の 2 点である。第一は来年度に予定の国交省事業評価監視委員会による南線の再評価に当たり、地元栄区民の大多数が南線建設に賛成であることを示して事業継続決定の評価を得るために、上記のような利点だけを並べて区民の負担は一切無い形のアンケートを行ったのである。今、大きな社会問題となっている佐賀県玄海原発 2, 3 号機再稼働の賛成者を増やすために九州電力が行った「やらせメール」と同じ構図であり、本件は行政自身が行った点でより悪質である。

やらせメールが原発の危険を隠した中で行われたのと同じく、今回のやらせアンケートでは南線の事業費 4,300 億円のうち 600 億円を横浜市が負担することを一切知らせないでアンケートを行ったのである。この事を周知した上でアンケートを行えば南線建設賛成は今回の 38.1%(間違っただけの公表数字では 58.9%)よりも更に少なくなり、600 億円は南線建設よりも医療、介護などに振り向けるべきという意見が圧倒的に多くなる事は間違いない。

第二は、今回の意識調査は 51 問中 24 問の回答が集計法の誤りによる間違いデータであり、これは税金の無駄遣いであるだけでなく、このような間違いデータを基に区政を行うことは極めて危険である。

裁判では以上の二点について厳しく追及していく。
(法都計部)

活動報告

- 7/02~03 日本環境会議第 28 回大会 (東京経済大学国分寺キャンパス、比留間、柴田、長谷川参加)
- 7/07 高尾天狗裁判控訴審傍聴 (東京高裁、比留間、永田参加)
- 7/07 国会議員会館事務所訪問し国会等での対応方要請 (三村和也、長島一由・中島隆利・穀田恵二各議員事務所、比留間、永田)
- 7/08 横浜市に対する住民監査請求の回答書受領 (6/06 監査請求書提出、7/08 回答書受領)
- 7/20 長島一由議員会館事務所訪問し栄区のアンケート問題の住民監査請求状況等を説明し、議員の対応方等要請 (秘書対応、比留間、長谷川)
- 7/20 「不要・不急な公共事業 2011 年度予算を震災復興へ」の衆院議員会館院内集会&内閣府への要請行動に参加 (比留間会長以下 6 名参加)
- 7/21 道路全国連首都圏幹事会 (新宿公害センター、比留間会長出席)
- 7/22 県庁環境アセス確認、市道路局情報公開資料受領 (比留間、長谷川、永田)
- 7/25 最高裁要請行動 (高尾裁判) 比留間
- 7/26 第 7 回大気汚染公害被害者新救済制度神奈川相談会 (桜木町横浜平和と労働会館、長谷川)
- 7/28 かながわ大気汚染・道路公害連絡会 (長谷川)
- 7/29 「横浜市ぜん息患者医療費救済制度等の実現に関する要請 (6/07 要請書提出)」に関する横浜市健康福祉局との要請交渉 (市庁舎 7 階会議室、長谷川出席)
- 8/02 栄区実施のアンケート問題に関して住民訴訟を横浜地方裁判所に提訴

「不要・不急な公共事業 2011 年度予算を震災復興へ」集会、そして阿久津内閣府政務官（国家戦略担当）への要請行動報告

7月20日午後、衆院議員会館会議室にて行われた集会に6名が参加し、比留間会長が道路全国連を代表して現状を発表した。また、集会後に代表が内閣府の阿久津政務官に面会し、要請書を手渡し震災復興優先への政策転換を強く訴えた（連協から4名が参加）。



（内閣府阿久津政務官への要請）

この席上、庄戸3丁目の田中恵子さんが一週間の震災ボランティア経験からの現場状況が如何に大変な状況にあるか（いまでもって見渡す限りがれきの山のまま、重機が1、2台しか無い等）、帰る際には被災者から「こんな状態なのに自衛隊・消防隊・警察等がどんどん去って行ってしまふ、私達を見捨てないで欲しい」とすがってくる状況を目の当たりに見て、日本の政治はこんなにも駄目になってしまったのかと痛感したことを話された。

同じくボランティアに行ってきた犬山の藤原典子さんからは、**横環南線は4,300億円、1mに5千万円も掛る不要不急な道路であり、直ちに凍結して震災復興に回すよう訴えた。**

これらに対する阿久津政務官の言葉の中に「今日の要請内容、皆さんの意見は非常にありがたいことで御礼申し上げる。このように予算を震災復興に回すような話は伝わってきていない。議員からそのような声が出ることも大切、地元の議員にも是非対応願いたい」との言葉があった。

この国難に於いても、**自身の地元重視で国全体としての優先に配慮できない国会議員の実態を象徴する言葉と筆者には聴こえ、私達の選んだ地元国会議員はそうであって欲しくないとの思いを強くした。**（長谷川誠二）

日本環境会議東京大会参加報告

7月2～3日にかけて国分寺の東京経済大学で開催された。32年前にスタートしたこの会議はその時々主要な課題を抱える地域で開催してきた。今年の28回大会は都市集中による環境破壊をテーマが主体であったが突如大震災がその主役となり環境行政への議論集中となる大変有意義なものとなった。公共事業に端を発する環境破壊にいかに取り組みか、この機会を捉えて日弁連が30年来の課題である法改正を求め検討に入ったと報告があった。

全国から環境学者、弁護士や活動家が100人以上集まり、道路関係では圏央道、外環道路、都市計画道路の問題やそれに伴う大気汚染や環境汚染など道路公害に熱心な討議が行われた。これらの成果を今後大いに期待するものである。（会長 比留間哲生）

平成23年6月期NO₂測定結果

平成23年6月期の調査結果は、大雨後でもあり、極めて良好な結果となっています。（環境部）

